

埼玉県新座市シルバー人材センター会報

ゆうゆう通信

2022年10月15日 第113号



本多の大イチョウ

— 目次 —

- 2 頁 シルバー人材センター
- 3 頁 事務局員の役割分担紹介
- 4 頁 新・健康ニュース
特定検診って受けた方がいいの？
- 5 頁 新・職場探訪
ピブリア
- 6 頁 クローズアップ地区活動
第11地区／第20地区
- 7 頁 新座再発見
振り向けば昭和（秋編）
- 8 頁 言いたい放題時事呆言
断捨離をする？しない？
- 9 頁 ゆうゆうエンタメ
マリリン・モンロー／マカロンとトゥンカロン ほか
- 10 頁 ゆうゆうエッセイ
出会いの散歩／密やかな愉しみ方
- 11 頁 親睦会だより
シルバー川柳を募集！
- 12 頁 理事会報告
大和田婦人会フェスタ
編集後記／表紙の眩き

事務局員の役割分担紹介

業出来るよう全力でサポートしています。



(左奥)
専務理事・事務局長
片山佳則さん 全体総括担当

(中央奥)
長瀬友理子さん
経理全般を担当

(左側)
谷中利夫さん
IT担当。ホームページ作成や更新、ネットワーク管理

(右側)
河合 均さん
派遣関連事務業務

(左側)
細沼 栄さん
経理業務（入金チェック・集金）庶務

(右側)
斎藤和子さん
経理業務庶務、親睦会関連業務

(右手前)
面谷淳子さん
派遣関連事務業務

成年後見委員会活動

9月7日、令和4年の成年後見講座がスタートした。成年後見委員会独自の主催講座は途中コロナ禍で中止した年度もあったが、これで7回目となり、養成講座終了者は100名に達した。一つの節目として、活動の歴史を簡単に辿ってみる。

平成22年、福島理事長、当時の事務局長、監事他が東京での成年後見制度のセミナーに参加したことから始まる。

翌平成23年には早々と当SCでの委員会研修に当時東京大学特任助教だった宮内康二先生を講師としてお迎えして講演、同年更にリーダー研修に於いても同様の講演を開催した。

こうして、SCの中で成年後見制度について会員の知ることになってゆく。平成24年には、公益社団法人へ定款変更登記を済ませ、成年後見事業プロジェクト会議を立ち上げ、市民後見養成講座にSC会員を送り出すことになる。

シルバー人材センター 事務局はSC活動の要です。会員が安全に就



(左奥)

高森初子さん
就業報告計算、請求書等作成発行業務

(右側)

瀬高孔子さん
就業報告計算、請求書等作成発行業務

(左手前)

煙草妙子さん
就業報告計算、請求書等作成発行業務

(中央奥)

花岡佐己子さん
業務全般、安全・会員開発委員会

(左奥)

清水陽介さん
就業開拓関連業務
・就業開拓委員会

(右側)

寺島洋子さん
ちょこっとサポート
業務

成年後見相談室

金枝久子さん
成年後見関連業務、
成年後見委員会

柳澤眞理子さん
成年後見関連業務、
成年後見委員会

(左手前)

林 敬さん
就業開拓関連業務
・受託業務の手配、
紹介、備品の管理

(撮影時不在)

山口俊朗さん
会員入会、管理等
業務、総務委員会

平成25年、定時総会において成年後見事業の追加承認を得て定款変更を行い、正式に後見事業を開始する。但し、出発当時から、専門職の後見とは一味も二味も違う活動として、相談業務も同時に開始した。

これにより、被後見人に寄り添った内容になり、現在の活動の基盤になっている。

平成27年、地道な努力を継続しながら、いよいよSC独自の養成講座を主催するようになり、現在に至る。

この年初めて、さいたま家庭裁判所から受任を受け、現在まで終了案件を含め8件の受任を受けている。

一般的には活動を始めてから初めての受任を得る迄は数年掛かるが、2年余という早さは知識・行動を合わせた地道な活動が評価されていることである。

法人成年後見(市民後見)は様々な経験をした人間が集まり、バランスの良い活動が出来るのが最大の強みである。SCの法人成年後見事業は全国で唯一のことである。

(太刀川)

特定健診・後期高齢者健診

教えて！
ご隠居さん

新・健康
ニュース

面倒な手続きは不要！

自分のからだを知ろう！

通院中も対象です！

まずは、医療機関に電話で申し込み！！



身体計測



血圧測定



血液検査



尿検査



診察

健診でわかる病気の兆候

- 糖尿病 ●動脈硬化 ●高血圧 ●脂肪肝
- 脂質異常症 ●慢性腎不全 ●アルコール性肝炎など

- お問合せ先 ● 健康保険証を御確認ください。
- ▶ 市国民健康保険の方:新座市国保年金課保健事業係 電話048-424-4853(直通)
- ▶ 75歳以上の方:新座市長寿はつらつ課長寿医療係 電話048-424-9610(直通)
- ▶ 勤め先等の社会保険に加入中の方:保険証に記載されている健康保険組合

特定健診って受けた方がいいの？

新座市国保年金課保健事業係

熊五郎…ケータイに「特定健診が未受診のようです。受診はお早めに」というメッセージが来たよ。これはどうしたらいいんだい？

ご隠居…熊さんは国民健康保険だから、6月に市役所から緑色の封筒が送られてきただろう？桃色の受診券と健診の受け方が書いてある冊子が入ってなかったかい？

熊五郎…なんだかよく分からないし面倒くさいからタンスの引き出しに入れてっぱなしだよ。

ご隠居…おいおい、もったいないねえ。特定健診てのは、40歳を過ぎたら毎年受ける健康診断のことだよ。タダで受けられるんだ。

熊五郎…タダっていうのはいいねえでも、特定健診を受けると、酒の飲み過ぎで肝臓が悪くなつてるとか言われそうで嫌だなあ。

ご隠居…でもな熊五郎、特定健診を受けて、本当に肝臓が悪くなつてないか、ほかに悪いところはないか診てもらって、もし悪いところが見つかったら、早めに治療を受けたり、生活習慣を変えることで、この先も元気でいられて、おいしくお酒を飲み続けられるんだよ。

熊五郎…ふ〜ん、なるほどねえ。

八五郎…おいらのところにはハガキが来たよ。おいらは毎日ウォーキングをしているし、熊さんみたいに大酒は飲まないから、健康には自信があるよ。どこも悪いところはなさそうだから、特定健診なんて受けなくてもいいだろう？

ご隠居…ほお、八つあんは毎日歩いてるのかい。それは殊勝だねえ。特定健診はそういう頑張りの成果を認める場でもあるんだよ。健診を受けて、今のからだの状態が見える化してみたらどうだい？

八五郎…そうしてみようかなあ。

若旦那…私は血圧が高くて薬を飲んでるよ。毎月医者に行ってるから、わざわざ特定健診を受ける必要はあるのかな？

ご隠居…いつもの検査と特定健診では、見つかる異常(病気の兆候)が違う場合があるよ。受診券を持って、いつも診てもらっているお医者さんに相談してみるといいよ。特定健診にかかる時間は、大体1〜2時間くらいだから、忙しい若旦那でも受けられるんじゃないかい？

若旦那…相談してみようかな。

ご隠居…私は78歳だから、高齢者健診を受けるよ。

新・職場探訪

ビブリア

栗原5丁目
図書サービススポット

西武池袋線ひばりヶ丘駅
(西東京市)の北口から徒

歩5分のひばり通り沿い。
一見おしゃれなショップか
なと思わせる「栗原5丁目
図書サービススポット」が
8月2日にオープンした。



オープンした可愛いビブリア

本を愛する人々

施設の愛称は、「ビブリア」。しかし本棚はないので閲覧はできず、予約した本やCDの貸出しと返却、リクエストカードの受付を行う。広さ約22平方メートルの小さな本の窓口だ。

西東京市と6年間続いた図書館の相互利用協定が、

今年3月で終了した。駅南口にある西東京市のひばりが丘図書館を利用していた新座市民は、西東京市への通勤・通学者を除いて本を借りられなくなった。

代替施設として

新座市が設置

このため、新座市が代替施設として設置した。新座市立図書館のサービススポットは他に東北コミュニティセンターにあるが、単体施設は初めてで、新座市SCがサービスの全体を委託されている。

初代スタッフとなったのは原田佳臨さん、黒子佳津子さん、戸室康彦さん、横田仁さん、上津令子さん、高橋恭子さんの6人。通勤時間は徒歩15分の原田さんと自転車15分の高橋さんが最も長いという、いずれもご近所の皆さんだ。

休館日の月曜を除き、1日のシフトは▽午前10時～午後3時▽午後2～4時▽



前列左から原田さん、黒子さん、戸室さん
後列左から横田さん、上津さん、高橋さん

午後3～8時。各時間帯に1人ずつ入り、午後2～4時は2人になる。この時間を中心に、中央図書館から届く本をパソコンで処理し、各種リストを出して読み合せを行い、貸出しに備えて本を整理する。

原田さんは10年間、近くのガソリンスタンドで就業していたことから、SCから6人のまとめ役を期待されている。「1年ぐらい休んだので仕事がしたいとSCに連絡したら、丁度ここがあると紹介された。78歳の年寄りでも大丈夫な仕事で運が良かった」と笑う。

黒子さんは司書と国語教師の資格を持っているが、まだ仕事として生かしたことがなく、本に関係する仕

事を探していた。あいまいなメモを元に本を探してあげるなど「1日に何回も良かった」と言ってもらえて、とてもうれしい。

開設当初の10日間は市役所隣の中央図書館から職員が来て、マニュアルを示してパソコンなどに実際触れる研修を実施した。戸室さんは「最初は焦ることもあったけれど、慣れました」と余裕を見せた。

横田さんは、退職した後使っていないかったパソコンを使う作業が不安だったが「スマホができれば大丈夫」と言われて就業を決めたという。結果は「意外と簡単な操作でした」。

利用者を増やしていくのが仕事です

「駅前に来て便利になった」とよく聞きます」と、



利用者の氏名順に予約資料を棚に並べる

駅に向かって10分間自転車をこぎ出勤する上津さんは地の利を実感。「もつとアピールして利用者を増やしていくのが仕事です」と積極的だ。

子供が通った小学校などで読み聞かせの経験がある高橋さんは、シルバー会員に登録してすぐの就業。「本棚のある図書館とは違いますが、好きな本に関係する仕事なので」。そろいのエプロンでほほ笑んだ。



上原隆 館長

ビブリアに市職員は常駐しないが、貸し出す本と返却する本が行き来する先は中央図書館。上原隆館長は8月の貸し出し点数410、予約点数554という数字を挙げ、「ひばりヶ丘駅の通勤、通学の皆さんや、周辺の人に利用していただければ。SCはお客様の苦情もなく、うまく対応していただいてい」と評価した。

(大島)

クローズアップ 地区活動

ひまわりコンサート 2年半ぶり元気に集合 第11地区 懇話会

7月13日(水)午後1時半〜3時、野火止中集会所で第11地区(野火止7・8丁目)の懇話会が2年半ぶりに開催されました。

会員たちは班ごとにテーブルに分かれて座り、久々に会う仲間たちとの会話がはずみ、開始前からとても和やかでした。

内山秀治地区長の挨拶で始まり、この日最初の楽しいイベントは、3名の女性グループによる「ひまわりコンサート」でした。



「ひまわり」の皆さん

2020年の懇話会用の企画だったものが、今回ようやく実現したとのこと。「ひまわり」はこのグループの名前で、バイオリン、ピアノ、ボーカル担当のトリオです。5年前からボランティアで、デイサービス施設の施設や、介護ホーム、病院などで演奏活動を続けているそうです。

**ひまわりコンサート
プログラム**

- ♪ ひまわり
- ♪ パッヘルベルのカノン
- ♪ 夏の思い出
- ♪ 上を向いて歩こう
- ♪ アヴェ・マリア・ファンタジー
- ♪ 川の流れるように

ボーカル担当者も歌わずに曲の紹介だけでした。30分間のミニコンサートでしたが、参加者の感想は「バイオリンとキーボードの音色をそばで聴くことができ、迫力満点でした!」「声を出して歌えなかったのがとても残念!」「こういう企画もいよいよね」などで大好評でした。



互いの距離を取って鑑賞

続いて、地区担当の半田茂理事からセンターの現状報告などがありました。その後、地区の新会員も含めて20人ほどの参加者たちが、順に自己紹介と近況報告をしました。いつもの懇話会よりも短時間でしたが、お互いに次回もまた元気に再会できることを期待して帰途につききました。(尾形)

久し振りの開催 第20地区 懇話会

年相応に記憶力が落ち、最後の開催が何時だったか思い出せません。9月11日(日)堀ノ内集会所へ地区会員16名(参加率約45%)が集まりました。



マスクを外して記念撮影

「現役を終えSCに入会し、幾分か就業し、この第二の現役も卒業し、SCでの活動も辞退すると、本当に外の空気を吸う機会が少なくなる。こうした中で、なおSC会員でいるのは、外との絆を断ち切らない為であり、

地区活動の必要性の高さであり、使命だと思う」「外との接点が小さくなっていくと、地域の情報は貴重に思われる。気楽に簡単に、情報を得られる仕組みを考えて欲しい」等々、地活への感想や提言がありました。

今回は(食事なし、アルコールなし、カラオケなし、会費なし、笑顔はあり)のキャッチで行い、大人の駄菓子アソートを参加した会員にお配り致しましたが、ビールつまみばかりになってしまい、酒の呑めない方には不公平になってしまいました。



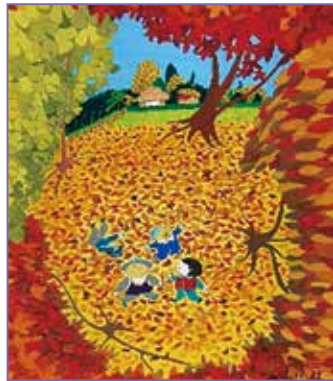
大人の駄菓子

これからはもっと無い知恵を絞ります。次回は統一ボランティアで又お会いしましょう。(太刀川)



落ち葉で戯れる童

私の育った所は武蔵野の片田舎。家から一歩外に出れば田畑と雑木林がすぐそこであって、自然がとても豊かな農村地帯であった。子供たちにとっては、その自然の全てが遊びの場であったから、遊ぶ所がなくて困るようなことはない。そんな片田舎で四季の移ろいを感じながら日々夢中で過ごしたものだ。



日だまりの秋

よく晴れた秋のある日を思い起せば、クヌギやクリの木が色づいて、日の光に照らされたその美しさは何と形容したらよいものか、子供ながらに感ずるものが

あつてこの時季は特に気持ちが高揚したものだ。

天高く澄み渡る秋空の下、色づいた葉が舞い散ると、お気に入りの葉を拾っては自慢しあい、落ち葉を集めてはその中で戯れる。そんな他愛のない童の気持ちを「日だまりの秋」と題して描いたのがこのシリーズの処女作である。

大人たちの社交の場

昭和二十年台後半の頃だつたらうか、その日も遊び疲れて家に帰ると、静まり返った十畳間に一人正座しラジオに耳を傾ける。その番組がなんであつたか記憶は定かではないが、「赤胴鈴之助」か「鞍馬天狗」あるいは「月光仮面」だったかもしれない。当時の娯楽画はなかなかお目にかかれな

い。こんな時代だつたから八幡様の映写会ともなれば境内を埋め尽くす程の人が

詰めかけ賑わつたものだ。木に紐をかけ幕を張り映画が始まる。風が吹けば幕が波打つ。途中フィルムが



待ちに待った映写会

切れて一休みということもよくあつたことだが、見ている者はそれが当たり前として待っている。再開するまでの間、大人達は世間話に花が咲く。これまた楽しいひと時であつたようだ。

十五夜の時期に思うこと

アポロの月面着陸頃まではかさず昔からのやり方で十五夜を行つて来たが、今では「中秋の名月」を報道で知るだけとなつて、しまった。

十五夜の日には、母は米粉でまん丸の団子を蒸かし里芋と栗を煮てお供え物の準備。僕等は草むらに出か

けススキやワレモコウ・オミナエシ等を摘んでくる。父が準備した一升瓶に挿して縁側に飾り、皆で満月を見上げて祝う。ただこれだけの事だが何故か懐かしい。

私には経験が無いが、母が子供のころは「この夜ばかりは、よその家の庭先に忍び込んで、お供え物を盗み食いしてもお咎めがないから子供の頃はよくやったよ」といつていた。僕等の幼い頃よりもつと昔の方が、おらかな社会だつたのだと思つたりした。



十五夜

今では、昔から引き継がれた風習はすっかり途絶えてしまった。子を持つ親として伝承できなかつた責任の重さを感じてしまふ。

絵が好きになった写生

春夏秋冬独特な表情を見

せてくれる田圃はどの季節も甲乙付け難い風景だが、黄金色の田圃は、父や母が手間暇かけた苦勞を忘れさせる色と同時に喜びの色でもあるから、収穫の季節の黄金色が一番好きだ。

田圃の向こうの木々の色・黄金色の稲穂が垂れる様・畦道・曲がりくねった小川・刈り取りに忙しい農夫などを、見たとおりに書きたくて頑張るが、二時間足らずの時間では描き上がらない。

本来は二時間という制限時間で描き上げなければならぬところ、私は未完成のまま提出したので通信簿は期待していなかつたが、何故か図画5?途中までの出来栄で評価してくれたのかも知れない。先生に感謝。



写生

言いたい放題 時事 呆言

断捨離をする？ しない？



▶ 進む断捨離・進まぬ断捨離 ◀

今日こそは…と押し入れの中の物を全部出し、「いる・いらない」と仕分けするが、ほとんど押し入れの中に戻ってしまう。「2時間かけて物が移動しただけだよ」と家族の声、「資源ゴミになると思えば、出来るでしょう」と友の声。

新型コロナ感染拡大で家にいることが多く、片付けられていない部屋や押し入れが気になり大変でした。形ある物でも心の中の思い出と繋がっている物の断捨離はむずかしいけれど、そうでないモノはすぐに断捨離できてしまう。モノが一つなくなり、二つなくなり「断捨離が進んでいるんだなあー」と思えるこの頃です。
(もったいない女子心 野火止70歳)

▶ 解っちゃいるけど、40余年 ◀

5月頃から一念発起？して部屋の模様替えと共に始めた不用品の処理(とても断捨離などとカッコつけて言ってもらえません)。出るわ出るわ…どうしてこんなに溜め込んだのか。ハタッと思いついた幾つかのフレーズ「いつか使う」「もったいない」「捨てる事は何時でも出来る」で、40余年。主人の二言目に出る言葉は「持ち込むのは容易だが、捨てるのは大変だから持ち込む前に一つ捨てる!」。解っているが、こうなった。そういう主人も仕事の資料と古くなった資料の山ができています。何はともあれ、言い訳無用。今の私に必要なのは思い切る事なのです。もう少し頑張ればスッキリできる、はず？(思いきれない女 東73歳)



▶ 捨てたの誰、捨てるの誰 ◀

もともと十数年前に子供3人が片付いてからは狭いマンションで老夫婦二人の生活なので、物は少なかったと思います。きっかけはTV・ラジオで片付けた物の処分費用が多額なことを知り、始めました。俺の物・私の物とそれぞれ責任を持って行う事にしたが、「ここに置いたあれは?」「邪魔だから捨てた」「なにに!」の問答も度々。でも金もかからず少しはスッキリしたかな?一番悩ましいのは家族のアルバム、父・義母の趣味の品。「思い出」をすてるようで処分できないです。まあまあ、「焦らず」そんなに深く考えることなくしばらくはマイペースでやっていこうと思っています。
(ふんぎりの悪い男 野火止72歳)



▶ 手元に残った100冊の蔵書 ◀

自分が死んだら持ち物は全部ただのごみだと思っている。なので学生時代に多分得意げに増やした本も、転勤で10回以上引っ越すうち、重くもあってどんどん捨てるようになった。結果、今春退職して単身赴任先から戻った時、蔵書は小ぶりの棚に収まる100冊ほどに減っていた。さて、増えた自由な時間をこの読破に注げば、半年を経た今ではもう全冊読んでゴミに出し終えているはず。しかししぶとく残っていた本たちだけあって改めて食指が動かず、他に電子本や図書館で物を増やさずにくらでも読めるので、手つかずのまま。もうあっさり捨てようかな、どうせ読みそうにもないし。
(こだわりの薄い男 北野65歳)

▶ 断捨離? 気に入らねえナ ◀

「断捨離」等とモテハヤス風潮があるが、気に入らない。不要品を処分したり、買わない事でしょう?死ぬ前に身の回りの整理をすることではない。ゴミ屋敷に住んでいるわけではないなら、こと改めていうほどの事ではない。

だから小生は不要品の整理を、数年に一度書籍を中心に実行している。背広の類いは引退時に全部捨てた。捨てられないのは長年の写真のデータ(大量のポジ・ネガフィルム)だ。近年のデータはPC周りで対象外。だから「断捨離」はしてない。無駄な買い物ナシ。普段の整理で十分だ。

(捨てバチな男 北野80歳)

▶ 吝嗇家の言いわけ ◀

断捨離の対象はモノだけではない。人間関係を整理する人が増えている。その典型が年賀状だ。毎年出そうか出すまいか迷ってしまう人が何人かは必ずいる。出しても返事すらなかったり、届いても定型文が印刷されただけの味もそっけもない賀状だったりすると、却って不快になる。それだけの関係なのだとされているような気がするからだ。盆暮れの付け届けも同様、人間関係をスムーズにするために永きに亘った慣習だが、実は相当の負担になっていた。賀状は電子メールに変わり、中元歳暮は若者には馴染まず無実化した。これぞ断捨離の極みだ。

(中元歳暮を贈ったことのない男 野火止75歳)

私の ゆうゆう エンタメ

映画 音楽 文学 芸能 スポーツ などなど

会員の皆さんのこれまでの人生で、心に残った経験や作品や1シーンなどをご紹介ください。ジャンルは問いません。約380字と写真やイラストです。

Sweets

(野火止 7 尾形 三津子)

マカロンとトゥンカロン

デパートの食品売り場などで、よくフランス風マカロンを見かけます。直径4センチ位の上下2枚の円盤生地間に、クリームやチョコレート、ジャムなどが少し入っていて、厚さは2センチ位。小さな最中のようにサクッと食べられて上品な味、値段は2個一組500円ほどで、高級感が漂います。



マカロン トゥンカロン

最近、川越の商店街で、「トゥンカロン」という韓国風マカロンが食べられるカフェを見つけました。トゥンは「太っちょ」という韓国語から。面白そうなので、お店に入って飲み物と一緒に注文しました。太っちょらしく、2枚の円盤生地の直径は約5センチ。間にはモンブランやチェダーチーズなどが分厚く入って、高さが4センチ位なので、ぱくっとほお張るのは無理です。1個400円位ですが、フランス風マカロンよりも甘くて庶民的な味でした。

Treasure

(北野 3 吉田 紀生)

オレの宝物

オレの宝物は、永年家人に馬鹿にされ、邪魔にされながら我慢し保管し続ける、新聞と雑誌のスクラップである。1985年(昭和60年)の阪神タイガースの優勝時の、春からの軌跡の束だ。最初は4月28日発行のまだシーズン8試合目。ここから勝ちゲームのデイリースポーツ紙と日本シリーズの勝ちゲーム全紙。それに大阪の友人にもらった優勝を告げる9月29日付の「サンカイスポーツ」もある。実際の優勝は10月17日付なのに、である。他に優勝後発行の雑誌と日本シリーズ公式プログラム。毎年家中の居場所を転々とする。今では移動時に、掛声をかけるテイタラクだ。「かび臭い」と家人に言われつつ写真を撮った。今では金で買えないこの宝物を、オレの死後長男が引き継ぐことになっているが、果たして!!?



HAIKU

(野火止 7 大島 直次)

枝豆や一合の酒清き夕ゆうべ(勝呂 睦男)

この作者には酒にまつわる句が結構多いし秀作も多く詠まれている。呑兵衛であることも間違いないのだが、仕事以外でも呑み友達の多い人物である。呑んで帰宅することが多かった。その分、家族に対する言い訳も多かったと思う。

そんな日々の中で、珍しく家の中で手酌で呑んでいる景色もまた絵になる。できれば縁側に胡坐をかいて呑んでほしい。目の前の盆に一合徳利とぐい飲みが乗っており、ざる 笹に盛られた枝豆が湯気を立てている。陽が陰った庭の片隅に風船カズラが花をつけており、辺りは静まり返っている。いつになく、清々しい気分だ。今日は一合の酒で止めておこうと自ら心に決めた。そう決めると何かこれまでになかった自分を発見したような得したような気分になる。



Superstar

(道場 1 M.O.)

マリリン・モンロー

10代後半から今迄半世紀以上にわたる、マリリン・モンローのファンなのです。写真集、書籍、雑誌の切り抜き、四つ切りのカレンダー、映画DVD、歌、諸々のグッズ、等々自然と集まった資料は本棚1個分です。何故、こんなにも魅了するかといえば彼女を想う時私の心に、トゲが刺さったような贖罪の念が湧くからです。彼女のプアな心を凌辱したのは、男の身勝手さであり、世の男に責任があるからです。

順風満帆ではないプライベートの生い立ちや、数々のスキャンダルを乗り越えたのは、彼女の向上心であり、共感こそすれど、非難するのはとんでもない。何もしてやれなかった、何もしなかった事自体が男の無責任なのだと勝手に思っている。彼女とは何の関係もない東洋の島国の無責任な男の思い込みです。





出合いの散歩

野火止7丁目 長谷川昭也

健康麻雀「よつば会」の会員であり友人でもある仲田正治氏との会話。

「普段何をしている？」
「出合いの旅、ならぬ、出合いの散歩」だな」

と返って来た。毎日やっている散歩の途中で出会った人々のことである。



左から中川勇二氏、仲田正治氏。そしてハーモニカのオジサン

仲田氏が出会ったのはシルバリーの植木班と一緒に仕事をした中川勇二氏である。



脳梗塞を患ってリハビリに励み、ようやく散歩ができるまでになったのだという。

「小さな公園があつたね」その公園は仲田氏、中川氏のお二人の自宅から1000メートルくらい離れている所にある。「公園の脇に、ハーモニ

カのおジサンがやって来るんだけど、上手くてね、演歌なんか、その人のキーに合わせてハーモニカを替えて演奏するんだ」

と楽しそうに言う。

「今度、行ってみるよ」
後日、その公園の脇に行

ってみると、三人のおジサンが腰を掛けていた。

三人とは仲田正治氏と中川勇二氏、それにハーモニカのオジサンである。「いつもの事。これが心のよりどころだね」

と仲田氏は嬉しそうに言う。なるほど、まさに三人が「出会う散歩」になつて

いる。とても楽しそうだった。



長谷川昭也さん

密やかな

愉しみ方

石神4丁目 仲田正治

散歩道にて

フラワー通りを歩く。鮮やかに色とりどりの紫陽花あじさいが咲いている。短い梅雨が明け、強い陽ざしを浴びて、あれほど鮮やかだった紫陽花たちが萎れ、惨めな姿になつていた。

次は我々の出番だと言わんばかりに、百日紅さるすべり、夾竹桃きょうちくとう、ノウゼンカズラが咲きだしている。

散歩の途中にある木陰で友人たちと待ち合わせている。雑木林から吹き抜ける涼しい風を受けながら、老人三人で語り合う。

話題は豊富で尽きない。政治、経済、芸術（ムムー

ッ!?)と。このひと時がとても愉しい。

麻雀の愉しみ

もう一つの愉しみが健康麻雀サークル「よつば会」の例会である。

上手な人ばかりなので負けてばかり。ツキや女神を味方にしなくてはとても勝てない。

ところで、勝負ごとにおけるツキとか流れとかは、科学では解明できない摩訶不思議な現象。このツキさえ手にすることが出来れば、どんな相手にも勝つことが出来る。高い技術も深い読みも木端微塵になる。

だが、このツキを自分の手にと願うのは無理なのだ。何せ、このツキというヤツは、風の中の羽根のようなもので、気まぐれだから。とはいえ、勝つても負けても麻雀は愉しい。

明日は日曜日だ。例会麻雀に出かけよう。どうか女神に会えますように。

投稿をお待ちしています。字数や題材は自由です。手書きでもワードでも受け付け致します。(広報委員会)

親睦会だより

シルバー川柳を募集!

日帰り旅行は12月中旬実施

日頃より親睦会活動にご協力、ご指導いただき感謝申し上げます。

今年度も早いもので、何も出来ない状況で10月号の親睦会だよりになりました。国では経済優先と各行事も少しずつ行われております。コロナ感染もやや減少しておりますがまだまだ油断ならない状況です。しかし、今は少しずつ活動ができるようになり、統一ボランテニアは10月16日(日)に実施。また各地区も調整会議や懇話会等を開催しています。

親睦会ではシルバー川柳を募集し、審査結果を10月の地区長会議時配布の「親睦会だより別刷」で発表いたします。また、スマートフォン講座や秋の日帰り旅行についてもこの機会に実施する運びになりました。*ご案内については、ゆうゆう通信10月号に同封しています。(会長 後藤勝義)

今後の主な予定

- スマートフォン講座
日時：11月9日(水)
場所：SC会議室
- 秋の日帰り旅行
「鎌倉方面の旅」
日時：12月11日(日)
12日(月)
- 新春のつどい
日時：令和5年
1月15日(日)
場所：新座市民会館
- 親睦会文化祭(検討中)
日時：令和5年3月頃
場所：ふるさと新座館

サークル紹介

「公式テニススクール」(略称シルセン)

コロナ感染予防・熱中症予防対策を徹底しながら毎週例会シニアテニスを楽しんでいます。我がサークルは今年度も新座市スポーツ協会に団体登録して、市営

西堀コートを主会場に実施しております。

昨年度は29回、今年度も11回終了。サークル総員20名で毎年2名ほど新加入あり、会の活性化になっていきます。高齢化の時勢柄とはいえ八十歳以上の方2、3名が常連組、現在八十五歳が最高齢で、「米寿までを目標」にを合言葉にしています。西堀コートではいつでも新愛好者を歓迎しています。(佐伯生穂048-211-0920)



ゆうゆうゴルフ会

ゆうゆうゴルフ会は、30年に渡り、多くの諸先輩が築き上げてきた歴史ある親睦会です。年5回のコンペと月2回の練習会とミーティングを行っております。「ルールとマナーを守りプ

レーは楽しく」のスローガンの下、思いやりの精神を持って、会員相互の親睦を図り、楽しいゴルフライフを追及しています。

コロナ禍の中で、第117回のコンペを小幡郷ゴルフ倶楽部で開催、11月には富岡ゴルフ倶楽部にて第118回コンペを計画しております。野外でのスポーツという事で感染のリスクは少ないと思われま

す。コンペには、毎回8割の会員が参加しておりゴルフの上手な方も初心者の方も楽しくプレーを行い親睦を深めています。ゆうゆうゴルフ会は、シルバー会員はどなたでも入会可能です。皆様のご参加を心からお待ちしております。(黒子雅弘048-4827582)



こらむ 一寸一息

コロナウィルス蔓延の中、孫達が進級、進学に大きく胸をふくらませて頑張っている様子を間近に見ると、自分の青春時代を思い出します。しかし、家族で夕食時、若い孫達のデジタルな話題にはついていけないもどかしさも感じます。

コロナウィルス対策からでしょうか、急速にデジタル化が進み、パソコンやタブレットを使ってオンラインで授業、勉強をしている様子を見ると、どんな仕組みになっているのか判りませんでした。

時の流れでしょうか、そうはいっても、私もこの流れに少しは慣れてライン、ズーム、インターネットを使えるようになってきました。コロナのおかげ(?)、でなく社会の進歩なのでしよう。ですが、孫たちの会話にはついていきません。

やはりデジタル世代ではないシルバー世代の会合には心の安らぎを覚えます。これからもどんな時代の流れが来ようとも、死ぬまで心だけは青春で生きようと思っています。

(橋本淑子)

理事会報告

第4回(7月29日開催)

①7月分、男性7名、女性3名、合計10名の新規正会員の入会が承認された。

【7月末日、正会員数は1831名】

②6月分の実績について報告された。



③シルバー人材センター支援についての市長宛要望書案が報告された。

第5回(8月31日開催)

①8月分、男性8名、女性4名、合計12名の新規正会員の入会が承認された。

【8月末日、正会員数は1827名】

②7月分の実績について報告された

③シルバー人材センター普及啓発促進月間(10月)の取り組みについて報告され、シルバーPR動画作成の協力依頼があった

第6回(9月30日開催)

①9月分、男性5名、女性3名、合計8名の新規正会員の入会が承認された。

【9月末日、正会員数は1813名】

②役員利益相反取引(片山佳則専務理事)について報告があり、承認された。

本誌連載の瀧島さん 婦人会フェスタに出演

本誌に「新座再発見 振り向けば昭和」を連載中の新座SC会員、瀧島浩二さん(78) Ⅱ片山在住Ⅱが9月17日、ふるさと新座館で大和田婦人会(森田幸子会長)が開催した「第2回オータムフェスタ」に出演。

自作の絵と語りによる「スクリーンで見る紙芝居」で新座市の民話を上演した。

森田婦人会長によると、新型コロナウイルスで催しが次々とつぶれる中、「何か楽しみを」と昨年11月に感染状況のタイミングを見て初めて開催。地元の民話や昔の子供の遊びを温かみのある絵と文で発表している瀧島さんに出演を依頼し、好評

だった。第2回も出演をお願いすると快諾を得た。

瀧島さんは演目のトップに登壇。「民話に私のイメージで絵を描き、スクリーンやテレビで見ることができるよう紙芝居を作ってみました」と話した後、中野地区の獅子舞にまつわる「鯉になった少女」と、満月の不思議な夜の「黒目川の大蛇」という二つの民話を、ステージ上のスクリーンの絵に抑揚のきいた語りをかぶせ、演じた。



フェスタはこの後、音楽グループの演奏や、大和田婦人会によるフラダンスと民謡が披露された。

新座SC理事でもある大和田婦人会の鈴木明子副会長が司会で出演者を紹介。瀧島さんは会社を退職後、押し入れを整理してい

て子供が学校で使っていた絵の具と習字道具を見つけ、捨てるのももったいないので時間つぶしに身の回りの絵を描き始めました」と創作活動の始まりを披露した。

瀧島さんによると、62歳だった2006年9月16日に孫の靴を描いたのを皮切りに900枚以上の絵を描き07年7月30日に石神の喫茶店で展示会を開いて以来、今回のフェスタで展示・発表は1150回となった。(梁川)

計 報

- ・松本 義輝様(84歳) 畑中2丁目
 - ・磯辺 五郎様(88歳) 栗原3丁目
 - ・船本 逸雄様(69歳) 野火止5丁目
 - ・斎藤 茂様(80歳) 野火止6丁目
 - ・山岸 悦郎様(73歳) 新堀1丁目
 - ・佐々木 正志様(73歳) 大和田5丁目
- 謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈りいたします。

【表紙の吹き】

市内にイチョウの古木がなかなか目につかない。十年ほど前は大和田通信所横のイチョウ並木が、人に薦められる立派さだったが、今は残念な状態にある。個人のお宅の庭先にソビエルの時々見かける。落ちた銀杏が、踏みつぶされると強烈な悪臭が漂い不人気だ。焙烙の上で焙り、アツアツの焼上りは実に美味しい！ (吉田)

編集後記

本誌の編集委員に加わってから、そこその時間が経ち、その間に委員の顔ぶれも大きく変わってきた。新しく加わる人により、役割も変化していく。

平均年齢が下がり、いつの間にか「年寄りの座」に収まっている。ここ何年かで誌面がマンネリ化してきており、新委員の活躍で、紙面刷新が進めば、益々楽しく読める(または見てもらえる)ゆうゆう通信になるだろう。そう思える顔ぶれが揃った。小生も老骨にむち打ち、足腰を鍛え「この座」を温めていようと思

(吉田)